

令和 7 年 9 月 1 9 日
県土整備部道路計画課
成田国際空港株式会社

成田空港での自動物流道路の実現に必要な諸技術について 空港周辺のフィールドにて実験を実施します。

～国土交通省「令和7年度自動物流道路の社会実装に向けた実証実験」に採択されました～

成田空港「第二の開港」にあわせ、空港内、隣接公道、隣接地域を含めた物流の自動化・標準化を図り、一体的な自動物流道路システムを構築し、効率性、生産性の大幅な向上を図り、世界に誇る最先端の物流ショーケースを目指すため、空港周辺において実証実験に取り組みます。

1 実証実験の背景・目的

国土交通省では、「令和7年度自動物流道路の社会実装に向けた実証実験」として、建設中の新東名高速道路の区間における2027年度までの実験実施に先立ち、既存の技術・施設における実験を通じ、自動物流道路の実装に向けた技術的課題の検証および運用に必要な条件整理等を行うこととしています。

成田空港においても、令和7年6月に策定した「エアポートシティ」構想で物流分野の効率化・高度化に向け、空港内貨物施設を起点とする自動物流道路を整備することを掲げています。

今般、成田空港周辺をフィールドとした実証実験が国土交通省より採択されたことを受け、成田空港での自動物流道路の実現に向けて、空港周辺での実証実験に取り組んでまいります。

2 実験概要

実施場所：成田空港周辺施設（詳細は決定後、お知らせいたします。）

検証期間：令和7年度内（詳細は決定後、お知らせいたします。）

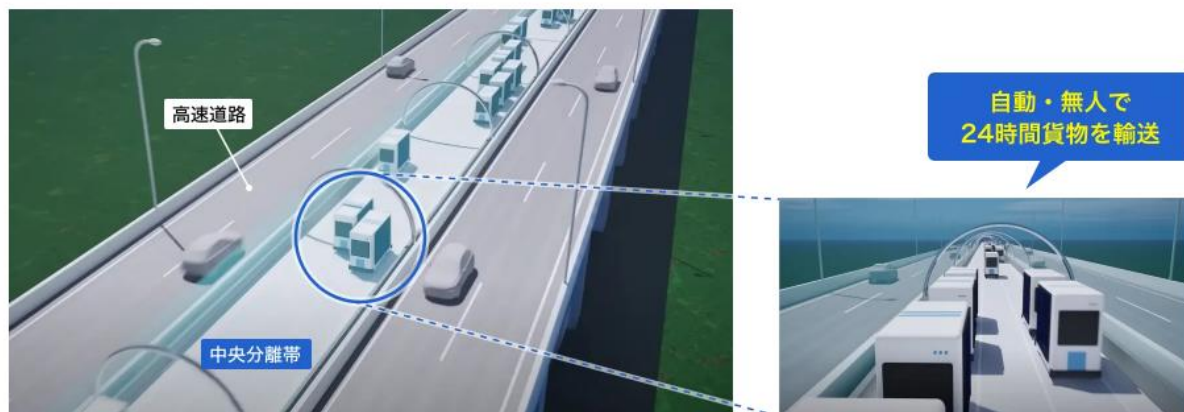
関係者：千葉県、NAA、その他搬送機器関連企業

対象機器：現行の自動運転技術を用いた搬送機器を複数使用して実験

<参考>

・自動物流道路とは

道路空間に物流専用のスペースを設け、クリーンエネルギーを電源とする無人化・自動化された輸送手段によって貨物を運ぶ新たな物流システムです。物流危機やカーボンニュートラルの実現といった社会の変化に対応することを目的としています。



(出典：国土交通省 https://www.mlit.go.jp/road/autoflow_road/)

・成田空港における自動物流道路の位置付け

令和7年6月に公表した『成田空港「エアポートシティ」構想』において、空港内貨物施設を起点とする自動物流道路を整備することを掲げています。

テクノロジーと制度の両面から、物流における課題を解決し、国際競争力を強化

物流分野の効率化・高度化

ドライバー不足や労働時間規制に対応し、物流の最適化や物流モードのシームレスな連結、カーボンニュートラルを目指すために、成田空港では空港内貨物施設を起点とする自動物流道路（オートフローロード）を整備。24時間稼働による安定輸送や物流モードのシームレスな連結により、物流の全体最適化と省人化、環境負荷の低減を同時に実現する。物流インフラの刷新によって、成田発の「持続可能で、賢く、安全な、全く新しいカーボンニュートラル型の物流革新プラットフォーム」を構築する。

成田空港の国際的な物流・産業ハブとしての機能強化に向けた規制緩和・制度導入

我が国の貿易拡大に向けて、国際空港の機能を生かした物流・産業拠点形成と迅速な物流チェーンの構築を目指し、輸送速度・品質管理が重要な貨物（医療用原料・生鮮農産物・精密部品等）等への対応力を強化するとともに、必要に応じた規制緩和・制度導入の検討を行う。

出典：国土交通省 HP(自動物流道路)

(出典：千葉県 HP <https://www.pref.chiba.lg.jp/kuushin/narita/kousoukouhyou.html>)

・令和7年度自動物流道路の社会実装に向けた実証実験について

国土交通省道路局では、国土技術政策総合研究所の試験走路等を実験場所とした実証実験を公募しており、千葉県と成田国際空港(株)と共同で、成田空港周辺をフィールドとした搬送機器の自動走行に関する実験を行います。